



せいめい

清明（4日）… 園庭の花が鮮やかな彩りを見せます …

都会でも、道端に咲く可憐な花などと出会う機会はたくさんあります。港区は意外と自然が豊かです。勤務する園の自然や季節の移ろいを「二十四節気」に合わせてお知らせし続け、すでに15年近くになります。身近な自然の変化に気付く心は、子どもの心のサインに気付く感性を磨くことにもなると思います、続けているコラムです。「青南の二十四節気」も4年目を迎えます。この小さなコラムが、皆さんの身近な自然の変化に思いを寄せるきっかけになれば幸いです。

## <鴻雁北 こうがん、かえる（4月9日～13日）>

清明の次候は「鴻雁北」という季節です。渡り鳥が越冬を終えて北へ帰っていくという季節です。七十二候は、ピンとくるものと、そうでもないものとに分かれます。特に、都会にいると渡り鳥は見る機会はないかもしれません。しかし、きっと冬の間、たくさんの白鳥や雁などが訪れている湖や沼などの近くではきつとこの季節がなるほど、と感じられるのだと思います。つまり、地域によって季節を感じるものは違うということです。ですから、青南では青南らしい季節を感じるものを探していきたいと思うのです。



アリの巣の周りにはきれいな土の山が

普段ならば、子どもたちが遊び回って踏まれしまい、きつとこんな様子を見ることはできないでしょう。小さなアリたちは地面の下でどんなことをしているのでしょうか。

## <たんぽぽの不思議>

幼稚園のあちこちで、たんぽぽが咲いています。先に咲き始めた園舎西側のたんぽぽは、茎が30cm以上に伸びています。綿毛を飛ばし終えて、しおれたものもあります。一方で園庭のたんぽぽの茎はとても短いことが分ります。たんぽぽのこんな変化をご存知でしたか。一体なぜでしょう？パソコンで検索して調べればすぐ分かるかもしれませんが、でも、子どもたちに答えを教えることはあまり意味がありません。大事なことはあれ？不思議だな？と感じる感性です。そして、触って試したり観察したり、図鑑で調べたりする探求心を伸ばすことです。

